泌尿器科

【１】研修プログラムの目的と特徴

泌尿器科は、尿路、生殖器、副腎の解剖や病態生理を理解し、根拠に基づいた、より専門性の高い医療を提供しなければならない。研修を通じて、泌尿器科医による専門的治療の必要性の判断ができ、一般医として必要な泌尿器科領域疾患の初期治療を行えるようになること、関連他科との適切な連携をおこなえることを目標とする。
また、尿路生殖器を扱う科として、患者の羞恥心への配慮も身につける。

【２】一般目標：GIO(General Instructional Objective)

・尿路・生殖器疾患の基本的知識を習得する
・チーム医療に参加して代表的な泌尿器科疾患の初期治療法を習得する
・一般医として必要な泌尿器科的基本手技を習得する
・救急外来を受診する泌尿器科疾患の病態を適切に把握し、緊急度に応じて適切に対応する

【３】行動目標：SBOs (Specific Behavioral Objectives)

1. 泌尿器系、男性生殖器系の解剖、生理、臓器ごとの主な疾患を述べることができる。
2. 的確に問診でき、わかりやすくカルテに記載できる。
3. 尿路生殖器について理学所見がとれ、異常所見を指摘し、正しい用語でカルテに記載できる。
4. 腹部超音波検査を実施でき、尿検査、採血検査を正しく評価できる。
5. 問診、理学所見、超音波所見、尿、採血所見から鑑別すべき疾患を挙げることができる。
6. 全身状態を考慮しながら、診断のために必要な検査（尿流量測定，KUB，DIP，膀胱鏡，CT，MRI，シンチグラフィー，膀胱造影等）を選択できる。
7. 尿路性器感染症（膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、精巣上体炎等）を診断して重症度を判定でき、初期治療ができる。
8. 肉眼的血尿の鑑別診断を挙げ、診断に必要な検査を述べることができる。
9. 排尿障害、蓄尿障害（前立腺肥大症、神経陰性膀胱、過活動膀胱等）をきたす疾患を述べることができる。
10. 排尿障害、蓄尿障害に使用する主な薬剤の作用、副作用を述べることができる。
11. 急性腎不全の診断、腎前性、腎性、腎後性の鑑別ができる。特に腎後性腎不全の対処について述べることができる。
12. 尿道留置カテーテルを正しい方法で留置できる。
13. 尿道、腎瘻、膀胱瘻などの尿路カテーテルを適切に管理できる。
14. 腎、尿路、性器外傷の診断ができる。
15. 急性陰嚢症（精巣捻転等）を診断・検査できる。
16. 小児泌尿器科疾患（停留精巣、尿道下裂等）を診察できる。
17. 尿路性器腫瘍の画像検査所見、代表的な治療法を述べることができる。
18. 泌尿器科癌末期患者の緩和医療が実践できる。

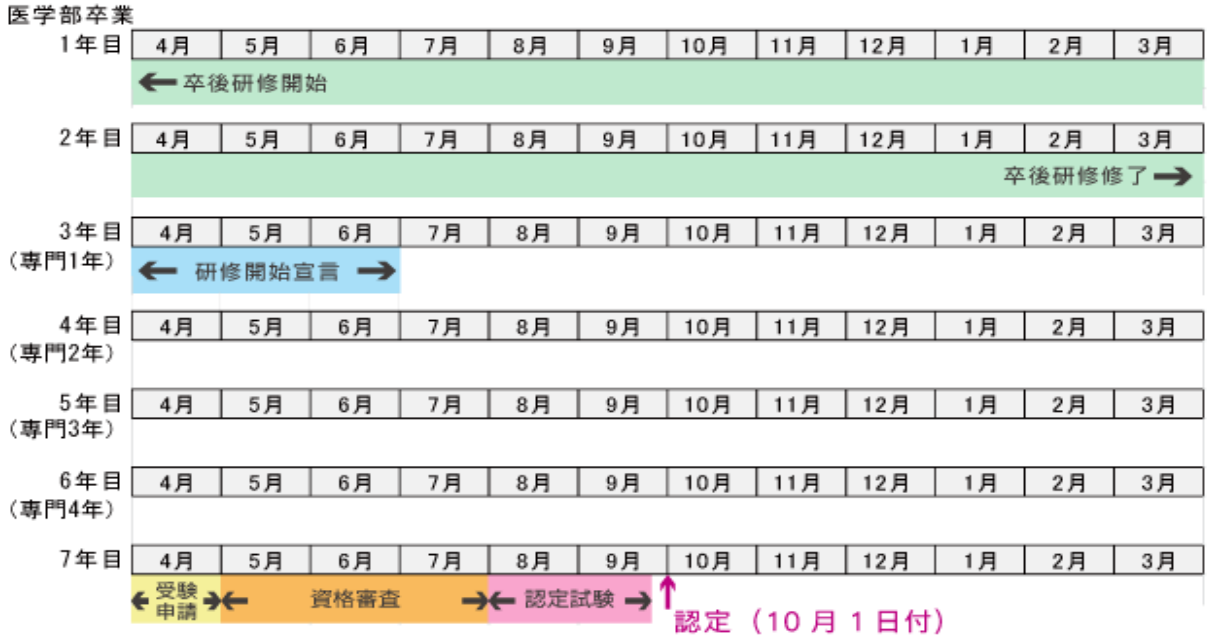
【４】週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟診療 外来診療	病棟診療 外来診療	病棟診療 手術	病棟診療 外来診療	病棟診療 外来診療
午後	検査	検査	手術	手術	手術

※ 入院・外来患者について、週１回の症例検討会を行っている。

【５】専門医取得への道

当科で後期研修医が取得可能な専門医資格は「泌尿器科専門医」である。
泌尿器科専門医取得への標準的な行程は以下の通り。



1. 医師法による卒後２年間の初期研修期間は泌尿器科専門研修期間に含まれないので、まず二年間の初期研修を修了すること。
2. 泌尿器科を志す諸君は、卒後3年目の6月までに日本泌尿器科学会に入会して3年目4－6月中に「研修開始登録書」を学会宛に送付し、泌尿器科研修開始を宣言する。研修開始登録書は学会HPよりダウンロードできる。
3. 専門医申請に必要な泌尿器科研修期間は4年間。この4年間で以下の条件をクリアすると泌尿器科専門医試験の受験資格を申請できる。
   ・学会参加、学術発表により指定の教育単位を100単位以上取得
   ・日本泌尿器科学会総会または東部・中部・西日本総会のいずれかに一回以上出席
   ・上記学会で開催される卒後教育プログラムを1コース以上受講
   ・1編以上の学会発表または論文発表（筆頭）
   受験申請期間は受験年の4月（1ヶ月間）のみである。よって受験年の3月までには上記条件をすべて満たしておかなければならない。また4月中の申請を忘れるとその年は受験できなくなってしまうので、絶対に忘れないよう留意されたい。
4. 受験を申請すると学会による資格審査があり、受験資格が認められればその年の専門医試験を受験できる。試験は年一回、国内の一カ所で行われる。専門医試験に合格すれば晴れて泌尿器科専門医を取得できる。

泌尿器科学会で認められた教育研修施設は年間の手術症例数に応じて「基幹教育施設」と「関連教育施設」に区分されるが、磐井病院泌尿器科は常勤医二名の小規模科ながら体腔鏡下腎摘除術、前立腺全摘、その他泌尿器科標準手術が年間120件程度行われているため「基幹教育施設」に認定されている。４年間の泌尿器科研修期間中の最低２年間は「基幹教育施設」で研修することが求められているが、当科で４年研修すれば専門医試験の受験資格を得られるし、他の「関連教育施設」で研修中の諸君も引き続き当科で２年間研修すれば専門医の受験資格を得ることができる。常勤医が少ないがゆえに都市部の泌尿器科研修病院よりむしろ研修医の執刀機会は多い。志ある研修医諸君を心からお待ちしています。

【６】方略(Learning Strategies)

1. 研修医は指導医とともに入院・外来患者を担当する。
2. 指導医の指導のもとに診察、検査、治療、説明等の業務に携わる。
3. 全症例の手術に参加する。
4. 症例検討会、研究会等には積極的に参加する。

【7】教育評価(Educational Evaluation)

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
9, 10, 15, 24	形成的	態度・知識	指導医	研修中	レポート
1～25					観察記録

【8】指導責任者および指導医、上級医

指導責任者:竹田篤史　　研修上級医:木村信吾

指導医及び上級医	役職	卒業年	主な資格など	臨床研修指導医
竹田　篤史（たけだあつし）	泌尿器科長	1989 年	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医･指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本小児泌尿器科学会会員、医学博士	○
木村　信吾（きむら　しんご）	泌尿器科医長	2010 年	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医、がん治療認定医	

【9】2016 年実績

膀胱癌	尿路内視鏡手術	47
	開腹手術	0
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	10
	開腹手術	4
前立腺癌	開腹手術	4
	腹腔鏡手術	1
精巣癌	根治手術	0
陰茎癌	根治手術	1
前立腺肥大	TUR-p	1
	HoLEP	6
	TUEB	0
尿管結石	尿路内視鏡手術	17

膀胱結石	尿路内視鏡手術	4
	開腹	1
腎結石	尿路内視鏡手術	0
小児の停留精巣	精巣固定術	8
真性包茎	環状切開	3
陰嚢水腫	水腫根治術	3
尿膜管	腹腔鏡手術	5
	その他手術	5
その他	尿路内視鏡手術	3
	その他手術	6

【10】2016 年度学会･論文発表実績

＜学会発表＞

第 104 回日本泌尿器科学会総会「宮城県気仙沼市における夜間頻尿の季節性変動」

第 253 回日本泌尿器科学会地方会「当院で経験した萎縮膀胱」

International Continence Society 2016 “Seasonal Alterations in Nocturia: A Five-Year Longitudinal Retrospective Study”